



## ビー玉のもようはどうやって入れたの

### 色とりどりのビー玉

きれいなもようが入っていたり、美しい青緑色だけだったり、ころころ転がるビー玉は昔からある遊び道具の一つです。

現在、作られているビー玉は、直けい17、25、30ミリメートルの3種類で、もよのない青緑色、玉の中にもようのある「錦」、にじ色に光る「オーロラ」、しんじゆ色の「パール」などがあります。

### ガラスをとかして作るビー玉

青緑色のビー玉は一升びんなどをとかして、また、とうめいなビー玉は、とうめいなガラスをとかして作ります。まず、ガラスを1200～1400度Cの温度で、2～3日かけてゆっくりとかします。とけたガラスをあなから出しながら、工業用はさみで1個1個切るのです。

このあなから、とうめいなガラスを出すときに、中にとけた色ガラスを注入します。こうすることで、中がきれいな花びらもようのビー玉ができるのです。

はさみで切られたビー玉は、長さ約10メートルもある2本のローラーの間を通過して、約10時間かけて冷やされながら丸い形になるのです。（監修 小川 格）

